

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は公募申請課題名)	血液中の細胞に抗酸菌を感染させる実験から抗酸菌症の発症の仕組みを解明する (ヒト末梢血細胞を用いた抗酸菌症の基礎研究)
研究期間	平成 25 年 12 月 ～ 平成 30 年 12 月
研究機関名	慶應義塾大学
研究責任者職氏名	専任講師 西村知泰

※献血者に対しても理解しやすく、平易な文言を使用した課題名を記入してください。

研究の説明

1 研究の目的・意義

2011 年の世界における新規結核患者数は 870 万人、結核による死亡者数は 140 万人と推定されており (WHO 2012 年)、結核は早急に制圧を要する再興感染症の一つと言える。現在、結核の標準的な治療は 4 種類の抗結核薬による 6 ヶ月間の治療であるが、服薬コンプライアンスを維持することが難しい点や薬剤の長期治療に伴う副作用 (肝障害、神経障害など) の出現などの問題があり、新たな結核の治療法開発が必要とされている。新たな治療法を開発していく上で、結核の病態を明らかにすることは重要である。肺非結核性抗酸菌 (NTM) 症は、主に中年以降の女性に好発する難治性の慢性進行性呼吸器感染症であり、近年本邦で増加傾向であるが、詳細な病態は明らかにはなっておらず、標準的な治療法も確立されていない。

2 方法《献血血液の使用方法含む》

ヒトと他の哺乳類では抗酸菌感染に対する感受性が異なることが知られている。献血血液から分離したヒト末梢血細胞に抗酸菌を感染させ免疫応答を調べることで、抗酸菌感染症の病態を検討する方法は確立されており (Nishimura T. FASEB J. 27: 3827-36: 2013.)、本研究でも抗酸菌感染ヒト末梢血細胞を用いて抗酸菌感染症の病態を解明する。

3 予測される研究の成果等

本研究は未だ明らかになっていない抗酸菌症 (結核、肺 NTM 症) の病態の解明を目的とする。本研究の成果によって、将来、抗酸菌症患者の診断や予防、治療などがより効果的に行われると期待される。

受付番号

27J0003

本研究に関する問い合わせ先

所属	保健管理センター
担当者	西村知泰
電話	03-3353-1211
Mail	tnishimura@keio.jp

本書は日本赤十字社ホームページで公開され、必要に応じ献血者への説明資料として使用されます。